



学校だより
ながや

令和5年 12月 22日
横浜市立永谷小学校
校長 神田 敏之

「丸山台小学校の人は、自分から挨拶をしてくれて、いろいろな話をして友達になりました。

相手のいいところを見つけるといところを達成できました。」

「相手がいいプレーをしたらナイスやいいねなどのかけ声をかけられた。味方が失敗したけれど次がんばろうと声をかけられた。日常生活でもだれかが失敗しても責めないようにしたい。」

校長 神田 敏之

5年生の子どもたちが丸山台小学校の5年生の子どもたちとスポーツ交流会をしました。自分のチームも相手のチームも応援をする、挨拶をする、勝ち負けに関係なく認めるなどのめあてを達成することができました。

種目はサッカーとバスケットボールですが、みんなが運動を楽しめるような工夫がなされています。サッカーはチームの人数が5人で、ミニゴールとコーンとバーを使った高さが低いゴールになっています。ゴールキーパーはいません。みんなで攻めたり守ったりします。バスケットボールのチームの人数は3人でコート片側を使用するいわゆる3 on 3（スリー オン スリー）という形式で行います。

誰もが運動を楽しめるようにするためには、誰にもボールを触る機会があり、シュートができるということが必要です。例えば、従来の大人数のサッカーでは、ボールに触れなかった、ゴールキーパーとしてゴールの前に立っているだけで試合が終わってしまったということが起こってしまいます。今の体育の学習ではどの学年でもルールを工夫して、運動量を確保し、楽しめるような活動にしています。

このように子どもにどのような力を付けていくかということを基本に学校の教育活動を考えています。例えば、従来の日光修学旅行は、華厳の滝や東照宮を短い時間で見て回ることが中心になってしまい子どもたちが主体的に活動する場面を設定することができません。いわゆる添乗員の指示に従って見学するパック旅行のようになってしまいます。次年度は、子どもたちが計画段階から参加をし、自分たちで修学旅行を作り上げる、6年間の学びを発揮するという本来の修学旅行のねらいにすることから場所を県内にしました。宿泊地は箱根に決めています。どこで何を見学するかは子どもたちと作っていきます。どんなアイデアが出てくるか楽しみです。

私たち大人は、いつまでも子どもを見守るわけにはいきません。保護者がついていなくても生きていける力を付ける必要があります。自分で考え、決めて、行動する力を付けていくように学校では考えています。その趣旨をご理解いただき家庭でも同じように自分で判断できる子どもにしていきましょう。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



今年度は子どもたちの様子についてホームページも活用してお知らせします。
月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。